



釜石のジオサイトを紹介しします

南部北上帯のジオサイト

はしの てっこうざん

橋野鉄鉱山

橋野鉄鉱山は鉄鉱石の採掘場跡、採掘された鉄鉱石を運搬する運搬路跡、そして鉄を製錬する高炉場跡の三つで構成されています。採掘から製錬までの工程が残る産業遺産はとても貴重で、3基の高炉は現存する国内最古のものです。平成27年7月、ユネスコ世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として登録されました。

1億2,000万年前に隆起したマグマは高炉場付近で冷えて花崗岩となり、高炉などの石材として使われました。このように地質を最大限に生かした営みが感じられる場所となっています。

場所：橋野町青ノ木 アクセス：鵜住居駅から車で約35分



かまいしこうざん

釜石鉱山

釜石鉱山は、火山活動によって上昇してきたマグマと、生物の死がい堆積してきた石灰岩層とが反応してできた鉱床です。磁鉄鉱や黄銅鉱は国内有数の産出量を誇り、「鉄の町」釜石を支えてきました。

現在は、研究用に高品位な鉄鉱石を年間100t採掘する他、坑道の再利用や岩盤から湧き出る鉱泉水を利用したナチュラルミネラルウォーターの販売などが進められています。

場所：甲子町大橋 アクセス：釜石仙人峠ICから車で約15分、陸中大橋駅から徒歩約10分

早池峰東縁断層のジオサイト

せんじょうがたき 千丈ヶ滝

千丈ヶ滝は両石町水海川の上流にあります。周辺の地層からは4億2,000万～3億6,000万年前（古生代デボン紀）の地球最古の森を作ったとされる植物のリンボクの化石が発見されています。低緯度帯に特有の植物であることから、当時この地域が赤道付近にあったことを示す重要な証拠です。

また、化石の発見された珪質凝灰質泥岩は、約4億年前（最後期シルル紀～中期デボン紀）の放散虫を含む地層（千丈ヶ滝層下部）で、北上山地の前期～中期古代構造発達史を解明する上で重要です。

場所：両石町（水海川上流） アクセス：釜石駅から車で約40分



リンボクの化石（岩手県立博物館所蔵）



りょういし つなみ きねんひ 両石の津波記念碑

両石はV字状の谷地形となっているため、津波のたびに甚大な被害を受けてきました。両石の津波記念碑はもともと明治29年と昭和8年の津波の到達点に建立されていたものが、昭和30年代の国道45号建設などによりまとめて移設されました。その後、東日本大震災の直前に現在の位置に再移設されたため、流出を免れました。

明治・昭和と津波の被害に遭った人々の思いは東日本大震災を経験した我々市民と同じものであったと思います。しかし、時がたてば津波の経験は風化していくことを教えてくれる貴重な石碑群です。

場所：両石町第3地割 アクセス：釜石駅から車で約15分

三陸ジオパークを学べる施設

旧釜石鉱山事務所

釜石鉱山の歴史や地質・岩石などが学べます。ドイツの地質学者ナウマンによる東北地方の地質図や世界の鉱石、昭和の事務所などの館内展示ほか周辺の鉱山風景も必見です。4月1日から見学を再開します。

場所：甲子町1-90-2
アクセス：釜石仙人峠ICから車で約15分
陸中大橋駅から徒歩10分



根浜海岸レストハウス

根浜海岸レストハウスはオートキャンプ場や多目的広場が併設されています。三陸ジオパークのパネル展示やVRゴーグルを使って三陸ジオパークを学ぶことができます。

千丈ヶ滝周辺から発掘されたリンボクの化石も展示しています。

場所：鵜住居町21-23-1
アクセス：鵜住居駅から車で約5分

